

障害児も健常児も 自然につきあえたらいいな！

「地域福祉基金」って知っていますか？民間の福祉活動をお手伝いするために県が設けている基金です。今回は、その対象事業に選ばれた「八代・なかよしおもちゃ図書館」を訪ね、地域に根差した福祉活動の一端に触れさせてもらいました。特派員は、小柴久美子さん（八代市出町）と下田みのぶさん（芦北郡芦北町）です。

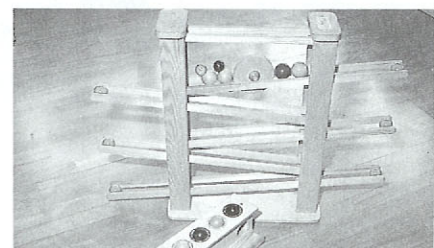


おもちゃを作るのってたのしいね。お友達といっしょだからー

●障害児と健常児の交流の場を

ごく普通の住宅に「なかよしおもちゃ図書館」の大きな張り紙。六畳ほどの板張りの部屋では、障害児、健常児たちの歓声が混じり、木製や布製のおもちゃが足の踏み場もないほどひしめいています。子どもたちはいろんなおもちゃでひとしきり遊んだ後、気に入ったものを借りていくのです。

タオルで作られたてるてる坊主、カラフルな木塊が音をたてて転がっていくロールパン・・・。「変化があつて音のするおもちゃに人気があります」と植草みどり館長。言語治療士の植草さんは県の施設で障害児の療育に携わってきた後、「地域の中に障害児の居場所を作ってあげたい」と自宅を開放、自費四十万円を投じ県内では八番目の「おもちゃ図書館」をオープンしました。一年経った今、おもちゃが二百点、賛助会員は百名を越えました。「障害児ばかりでなく健常児たちも多く集



もっと福祉 シリーズ3

おもちゃ図書館1日体験

まっています。お互い自然に交流できる、そんな場にするのが理想です」

●皆ボランティアが楽しくて

現在、主婦を中心とした十名のボランティアが、この「おもちゃ図書館」を支えます。仕事は、弱性石鹸でおもちゃの消毒をしたり、おもちゃを手作りしたりなど。今回は「なかよし通信」発送の手伝いをさせてもらいました。作業をしながら子育ての話に花が咲きます。「障害を持った子ども



和気あいあいど「なかよし通信」の発送作業

ちと同じ場で子育てしたかった。障害者への接し方がわからないまま大人になつてほしくない」と言うお母さん。「障害児って特別だと思つていたらけれど、そうじゃないことがわかりました。子どもは皆同じ、たくましい！」と言う元図書館司書の主婦。「私も、ボランティアの方たちも、楽しくてしょうがないのです」と植草さんは話します。

●地域福祉基金助成事業に

一周年を記念して、この九月には記録映画上映、コンサートなどのイベントも催されました。「目下の希望は、もっと広い公共の施設に移ること。おもちゃ棚もほしい・・・」というわけで地域福祉基金に申請、三十万円の補助金をもらえることになりました。「壊れていないおもちゃを寄付してください」。「ボランティアになつてく

●県内のおもちゃ図書館

- おもちゃライブラリー 熊本市大江5丁目希望荘内 ☎096・371・5533
- 第1、3土曜 13:00～16:00
- へみふねデコボコ会おもちゃ図書館 御船町御船ひばり荘内 ☎096・2882・0785
- 火、土曜 10:00～17:00
- 青いリンゴ館 五木市岩崎青いリンゴ館 ☎0968・74・4617
- 土曜 13:00～17:00
- へまわりの会おもちゃ図書館 山鹿市山鹿市福祉会館内 ☎0968・44・3559 瀬口さん
- 土曜 14:00～18:00
- へ荒尾おもちゃ図書館 荒尾市荒尾身障者いこいの家 ☎0968・66・0406 鎌先さん
- 第2、4土曜 13:00～15:00
- へ皇の子おもちゃ図書館 宇土市浦田市福祉センター ☎0964・27・1707 梅田さん
- 第1、3土曜 14:00～17:00
- へ八代なかよしおもちゃ図書館 八代市西松江城町11・24 ☎0965・35・2190
- 第2、4土曜 13:00～17:00
- へおもちゃ図書館むくむく 菊池郡菊陽町津久礼 ☎096・232・0878 三浦さん
- 火曜、土曜 14:00～17:00

子どもも親も、地域で育つ

小柴久美子さん 「おもちゃ図書館」は、おもちゃの貸し出しだけでなく、子育てに悩むお母さんや、核家族で育児だけが頼りの若いお母さんたちにとって、情報交換、親育ての場とも言えそうです。

「来る人を選ばない。一人であつてもその子のために開館する」と植草さんは言つてらっしゃいました。「このおもちゃを誰かが借りたいと待っているかもしれないから」と、昨年台風19号の暴風雨の中、おもちゃを返しに來られたお母さんもいたそうです。どんな風の中でも「おもちゃ図書館」は大きな窓を開けて子どもたちを待っています。

このように地域に根差した民間の事業に「基金」が役立っていることをうれしく思いました。

ワクワク、ほのほの、楽しそう

下田みのぶさん 「おもちゃ図書館」といっても下はゼロ歳から上は小学四年生くらいまでが対象だし、母親たちも気軽に立ち寄れるところです。一番苦労される点は人集めかなとお尋ねしたら、なんのなんの多くの方が利用、協力してくださるそうで、施設が手狭なほどだそうです。ここに来れば、スナップで取り付けた布の本や、カラフルなおしぼりタオルで作つたてるてる坊主など、手作りのおもちゃだつてできてしまいます。こんなに楽しくワクワクする場所が近くにあっていいですね。温かみのある木製機関車を手にとって見ているうちに、我が家の三歳の息子を思い浮かべ、近い将来、私もおもちゃ図書館をやってみたいなあというほのほのとした思いに駆られました。

「地域福祉基金」とは？

民間団体、企業、住民組織の福祉活動を支援、促進するために熊本県が設けた基金です。現在、32億円の基金を設け、その運用益により福祉の底上げを図っています。助成の対象となる事業については、毎年時期を定めて公募します。

「地域福祉基金」助成の対象となる事業は？

ボランティア、高齢者の保健福祉、障害者の社会参加と自立、児童福祉の向上、その他地域福祉の増進等に関する事業を対象とします。

これまでに次のような事業が助成の対象となっています。

- 手話通訳ボランティア団体のFAX設置
- ボランティアの給食サービス拡充のための配食車の整備
- 高齢者の生きがい活動としての環境美化ボランティア活動の支援
- 音訳ボランティア拡充のためのダビング機器の整備
- 親子手話勉強会の支援

「地域福祉基金」についてのお問い合わせは？

各市町村の福祉課または
県福祉生活部社会援護課地域福祉推進室
TEL096-383-1111 (内線3666)



「子どもたち、楽しそうね」と小柴さん



「えっ、これも手作り？」と下田さん(写真左)